

第 8 回全学実行委員会議事要旨

文責:阿部潤

本文書では以下の略称を用いる。

参加者の略称:

委員長(全学実行委員長)

副委員長(全学副実行委員長)

局長(全学局長)

会計(全学会計)

榆(榆陵祭代表)

薬(薬学祭代表)

工(工学祭代表)

IFF(International Food Festival 代表)

農(農学祭代表)

獣医(獣医学祭代表)

歯(歯学祭代表)

医(医学展代表)

文(文系祭代表)

理(理学祭代表)

その他の略称:

各祭(北大祭を構成する上記の各種学祭)

委員会(委員会という場合、組織としての全学実行委員会を指す)

実委(実委という場合、会議としての全学実行委員会を指す)

事務局(北海道大学大学祭全学実行委員会事務局)

1,(中略)

2,近況報告

BCP レベル 2 での来場者承知、BCP レベル 1 での食品提供が不可であるという連絡を事務から受けた。役員で協議した後、大学側に一方的な要求に抗議する形をとった。(メールについては LINE のとを参照してください)次の意見交換会で前提とするのではなく、話し合うことを考えている。開催時間について、22 時までの開催がまん延防止処置などの関係で前倒しになる可能性がある。これについても意見交換会で話す。榆陵祭で例年やっている仮装行列企画についても話し合う。

農) 本部会議でなにか決まったのではないか

工) 事務は言葉の使い方が上手いため、なにか(話し合い・会議)があった可能性がある。

農) 高いレベルで意思決定があったのではないかと考える。

3, コロナ対策としての来場者制限について

コロナ対策の一環として来場者数を 5000 人以下に制限する、かつ事前予約にするという案が出ている。システム的にはメールアドレスを登録してもらう方式を取り、可能ではある。5000 人以下という数字は札幌市が出しているイベントの数字による。しかし、この数値は3日間併せた数値なのか、1日毎の数値なのか、午前午後ごとに5000人なのかはまだ詰めきれていない。午前午後で分ける案では午前のうちに来場者を外に出せるのかが問題である。コロナ対策案の一環として、入口付近に QR コードを設置し、参加時に読み取ることを考えている。入場後一定時間経過すると帰宅するような指示をする WEB サイトに飛ばせることもできる。この案のメリットとしては感染リスクの減少、正当性のアピールなどが挙げられる。デメリットとしては団体の収益減少が挙げられる。どこまで低下するのかは模擬店数の減少もあり読めない。

工) 1 点目、5000 人の制限はまん延防止処置の時のみのことである。まん延防止処置がなくなるとこの数値の根拠がなくなるのではないか。

2 点目、5000 人という数値は通算の来場者数で計算するのか、その場にいた人で計算するのか。1 時間あたりで入ってくる来場者は 3000 人強である。また来場者の平均滞在時間は 2~3 時間である。ここから、必要以上の規制をかけることになるのではないかと考える。また北大の敷地は広く、場所によって過密具合が分かれるため、一つ一つ根拠を持って数字を作るのが良いのではないか。
農) 大学が BCP レベル 2 では参加者の名簿を作らなければならないことと、この対策案は対応しているか。

委員長) 対応していない

農) 参加者の名簿を作ることに来場者の名簿で応えることはあるか

委員長) そのことは北大祭プライバシーポリシーに抵触する可能性がある。また、人員が避けるかどうかは事務局に確認する必要がある。

農) 事前予約のときに予め記入してもらうことで参加者名簿とするのはどうか

委員長) 来場者の行動順序を把握したいことから来ているため、それでは不十分であるかもしれない

工) 大学側が個人情報を使って何をしたいのかが見えない。個人情報は厳密な取り扱いが必要である。全学実行委員会としてもこれまで情報を渡してはいない。一方で大学側も個人情報をこちら側には渡していない。こちらからだけ渡すのは筋が通らないのではないか。また北大祭プライバシーポリシーに抵触する可能性がある。

委員長) 参加団体の名簿などを提出する際に、ELMS を経由して学生の情報を集めたほうが個人

情報保護の観点から良いのではないかと考えているが、事務からの返答はない。

工) プライバシーポリシーによると本人の同意を取れない限りいかなる場合も渡せないという文言がある。

委員長) 保健所に情報を提出する可能性はある。

工) 保健所は公的機関であるのでおそらく大丈夫であるが、大学は違う。そのため個人情報を渡せないのではないかと。

委員長) 推測になるが、来場者の個人情報を集め来場者の行動をすべて把握するのは困難である。また QR コードなども強制はできないし、情報の入力不備がある可能性もある。ここまで見ているとここまで厳しくすることで BCP レベル 2 での北大祭の開催を諦めてほしいという考えがある可能性がある。

局長) 事務局としてもやりたくはない。

工) 来場者数の制限について、来場者と一般の方をどうやって区別するのか。

委員長) 入り口の数を制限する。北大に研究しに来る方なども含めてチェックする。

工) それでは北大祭関係ない方までチェックされる可能性がある。

委員長) システム担当者によると、北大祭期間中における入場の予約をしていない方の入場を控えていただく広報をしようと検討している。

工) その場合、開かれた大学という大学のポリシーに反する可能性がある。大学は学外者の入場を認めているのに対し、実委では認めないこととすると、大学のほうが施設管理権で優位にある以上、そのようなことはできないのではないかと。

委員長) 大学に公式に意見を聞いているわけではない。関係各所に確認する。

各祭の意見

獣医	来場者制限を行うことについては賛成である。しかし、面積を考慮しないでただ 5000 人というのは根拠が足りないし時期尚早と思う。
農	一定の来場者の制限は必要になるかもしれない。しかし 5000 人というのは再考の余地がある。事前予約制などのことも必要かもしれない。
薬	来場者制限を行うことについて賛成である。収益が減ることについては今年に限っては致し方ない。できるだけ開催できる形を取るといい。人数に関しては様々な意見を聞き、まだ決めないほうがいいと考える。
IFF	来場者制限を行うことについて賛成である。しかし、来場者と学校関係者をどうやって分けるのかが疑問である。
楡	来場者制限を行うことについて、来場者にも対策していることをアピールすることができる、かつ事務との交渉でも対策について考えている態度を示せるため賛成である。しかし規制の人数については今決めることではないと考える。デメリットに関しては、開催日程が 2 日間担ってしまった事と併せて収益が減ってしまうが、やらないよりはやれたほうがいいため、参加団体にはこのことを周知した上で参加していただく。

文	予約していた人をすべてチェックするのはすごく大変そうである。人数の都合で実施が困難になる可能性がある。詰めていく上でもう少しこのような点を考えていかなければならないと考えた。人数については収益などに絡んでくるので根拠を持ってきめてほしい。場所ごとに込み具合が異なるので、各施設や各企画ごとで人数制限をするのもいいのではないかと考える。
工	来場者制限を行うことについては現時点では必要であると考え、事務局にもこのことを念頭に置いて準備してほしいと考える。しかし人数に関しては科学的な根拠に基づいて判断していただきたいのと、感染状況に合わせて何パターンか用意しておいて 11 月になって決めていくのが良いのではないかと考える。来場者の区別も難しいと思うので頑張ってもらいたい。(医学展の意見を踏まえて) 目的をそこで制御するのであれば事務からも人を出してもらってはできないのだろうか。全てを押し付けられるのは筋が通らない。手動は私達になると思うため、自分たちと事務で管轄を分けて、マニュアルを作成しそのとおりに動いてもらうのがいいと考える。
歯	歯学祭は非営利団体としての参加であるのでデメリットは特にない。システム的に可能であればいい選択であると考え。
医	来場者制限を行うことについてはリスクがある以上仕方ないと考え。収益減に関してはできるだけ少ない方向に持っていきたいがやむを得ないと考え。5000 人の人数についてはあるタイミングで 5000 人なのか、通算人数が 5000 人なのかは考える必要がある。散歩の人とかについて、そもそもの人数制限の目的がある空間での密を防ぐことであるならば、散歩の人も来場者も密度を上げている点には変わらないため散歩の人のみチェックしないのは現実的ではないと考える。ただ屋内の来場者制限とは切り離して考えることは可能であるため、人数制限の話は詰めて話さなければならないと考える。

獣医)人数制限に関して、11 月になるとワクチンの接種状況もある程度進んであると考える。そのためワクチンを接種した人も制限する必要があるのか疑問に思った。アメリカなどだと 60%の人がワクチンを打っているため経済活動をまた再開したなどのニュースがあった。

委員長)ワクチンを打ったあともウイルスが他の人に転移する可能性はあるのではないかと考える。ワクチンを一つの基準にするのはありではあるが、情勢を考慮する必要があると考える。

工)これから数字決める過程の中で、時勢を見ながら考えていくべきなのではないかと考える。

委員長)そう考えると、まだ 5000 人と決めるのは早いと思った。

獣医)集団免疫という考え方があり集団の 8 割の人が抗体を思っていれば、集団として免疫が成り立っていると考えるものがある。接種した人が割れ出せば接種していない人が何人来れるかが把握できるのではないかと考える。そこまで考えるかどうかは別にして。

工)ワクチンを諸事情で打てない人がいる以上、ワクチンの摂取で区別をするのは違うのではないかと考える。

委員長)札幌市など地域的に見て、ワクチンの接種率と来場者制限の人数を対応させるのはとても

有効でないかと考える。

会計)時勢を見てという声が多かったのだが、参加者を増やす方向であれば対応可能であるかもしれないが、もし急にオンライン開催などになった場合来年の北大祭が立ち行かない可能性がある。先が見えない事なので致し方無いと思うが、時勢を見てというのはいつまでのイメージなのか。

農)会計としてはどのへんがリミットなのか

会計)食品提供がある場合、レンタル業者の関係で2ヶ月前になる。食品提供がナシの場合でも夏休み終わり頃には決めて頂く必要がある。思ったより早めに決めていただかないと厳しいということをお伝えしたかった。

農)時間的なイメージは一致させたいほうがいいかもしれない

委員長)最初のデッドラインは食品提供でこれは2ヶ月前以上前に決める必要がある。まとめた図を委員会終了後に共有する。

獣医)オリンピック・お盆などで人の移動が増える以上、状況は良くならないと考える。

工)お金の面・事務局の各担当の関係・参加団体の事情などを総合的に勘案して決める場が実委であると考え。のちのち事務局の各担当からの情報も出てくると思うので、それを見て判断すべきなのではないか

委員長)コロナ対策における来場者制限については、皆さん概ね賛成していただけている様子である。様々なパターンを考えた上で来場者数については考える。

3,BCPレベル1で食品提供が許可されなかった場合について

事務から“BCPレベルが1では食品提供は不可能である”との連絡があった。もし食品提供が許可されなかった場合について各祭ごとに意見を伺う予定であったが、最初の方で話していたため事務についての疑問点などを確認する程度に留めた。

文)食品提供が許可されない状況が覆るまで交渉を続ける可能性はあるのか

委員長)ある。来週の意見交換会で“BCPレベルが1では食品提供は不可能である”状況を前提しているところを、前提ではないようにしたい。また詳しく詰めていきたい。

工)“もしも覆る”という表現は実委として認めているという表現になっている。このままで大丈夫なのか、議事要旨は公開されている。

委員長)直します。

追記:実行委員会としては「BCPレベル1では食品提供は不可能であること」を前提として認めておりません、実行委員長の発言はこれに則り訂正いたします。覆るという表現から、交渉するという表現に訂正いたします。

農)BCPレベル1での食品提供が不可であるということは、今年の北大祭では食品提供はだめであると事務が行っているように受け止めているが、認識はあっているか

委員長)私もその認識である。

農)今年レベル0になることはありえないと考えるがその点はどうか

委員長)私も同じ考えである。

農)レベル1も少し怪しいのではないか、ないわけではないと考えるが。

委員長)レベル1で対面の北大祭ができないのは困るので、事務と交渉をする。

工)事務交渉に当たり議事録を作っていただきたい。その後で事務側に確認をとってほしい。このことで解釈違いが起きないとなる。また一意的に取れない表現を避けてほしい。話がすり替えられている節がある。昔はそういう文書があった。主張が間違いないという事実を作って欲しい。

委員長)承知した。

農)食品提供がだめになる可能性があるということを北大生に知らせなくていいのか思う。事務が北大祭の食品提供が不可能であるとし、そのことを前提とする旨の連絡をした。このことを北大生が知らないままことが進行してもよいのだろうか。このまま私達が黙っているとそれが現実になる事になってしまう。それなりの周知をする必要があるのではないか

獣医)周知させると社会の目が増えるため、より一貫性を持った主張に事務もせざるを得なくなるのではないか

工)実務内容に関することもあり、攻めた交渉をするため、議事録をどこまで公開できるかという問題がある。暗黙の秘密保持成約がある。

委員長)公開する前に確認する。

獣医)一般向けになにかを言う機会を設けるのはどうか

工)第59回付近の北大祭開催期間についての事務交渉について、1回軽い打診が来て、そのときは有耶無耶になって流れた。2014年頃にもう一回打診が来て、飲まれてしまった。そのときの資料では、内部で決めてしまったことが失敗だった、全学的に巻き込んだ活動にならず学生主体の北大祭なのになぜ問わなかったのだろうか、というものがあつた。当時の事務交渉は実委のメンバーも事務交渉に参加しているはずである。どこかのタイミングで話を大きくする必要はあるのかもしれない。北大祭は課外活動を象徴するもので北大祭がだめなら他の課外活動もだめになる可能性がある。全課外活動団体の代表の勢いでやってもいいのではないか。

4,今後の予定

7月5日の委員会は中止とする。次回第9回全学実行委員会は7月12日となる。議題の内容は変更の可能性がある。第10回は7月26日、第11回は8月2日となる。8月中旬から下旬から、北大祭の実施に関する事務事項の伝達なども入る。

5,最後に

工)会計からデッドラインの話があつたが、現在は時勢が良くなることを願いながらになっているが、最悪の状態は常に想定する必要がある。この五月祭のように大学当局から禁止にすることは

あり得る。このときの補償の話はしといてもよいのではないか。この時大学側が止めたのだからそのときにかかる費用はそちらが負担していただくというものである。

委員長) 関係各所と調整する。

工) ある程度データに対する根拠の妥当性を用意してほしい。このことは意識してほしい。事務にも聞かれる可能性がある。

以上